

令和3年度 研究主題（案）

動いて自覚し 動きの質を高め合う しまねっ子

—なりたい姿のイメージをもち、「できそう」「できた」が連続する体育学習—

研究構想について

（１）めざす子ども像

- 運動の楽しさや、体を動かすことの気持ちよさを味わう子ども
- 動きや技能を身につけていく子ども
- 仲間とかかわり合いながら運動について考える子ども
- がんばっている友達を応援したくなる子ども
- もっといろいろな運動の行い方を知りたくなる子ども
- 健康・安全を大切にしている子ども

（２）研究主題について

体育の学習では、自分の体を動かしたり仲間と共に活動したりすることによって「できるようになりたい。」「もっとよりよくするにはどうするとよいか。」という思いが生まれる。その思いの中には、よりよい動きや健康的な生活のイメージがある。そのイメージを具体化し、ゴールを見据えて段階的に実現していくことで、学びの達成感、成就感を得ることができると考えた。

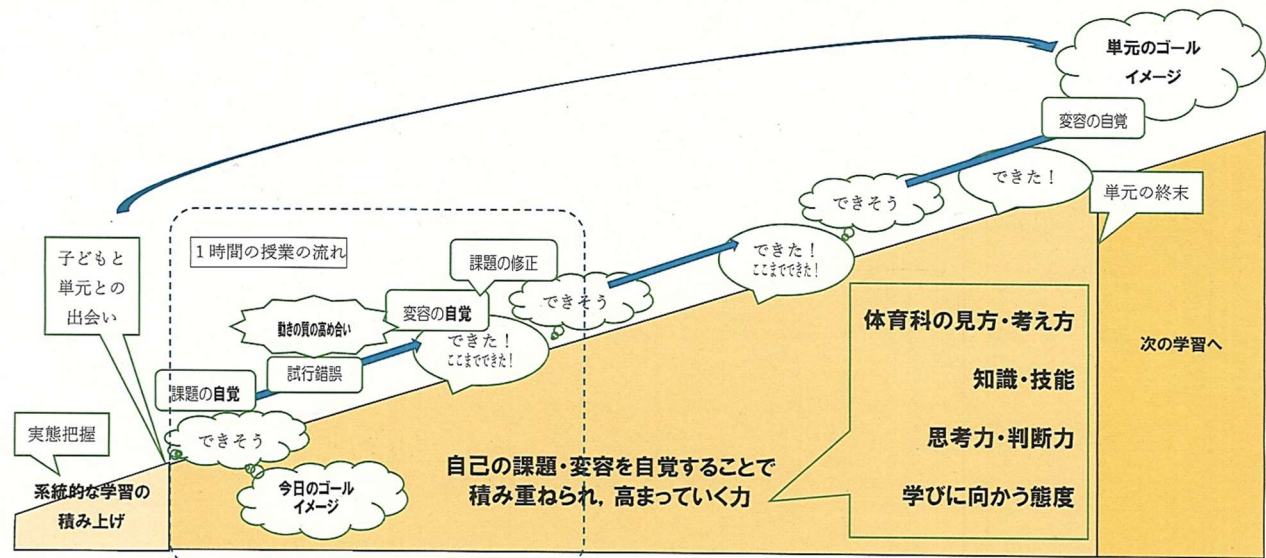
そこで、運動をすることで現時点での自己やチームの状態がわかり、出来栄えやつまずきから発生する問題点を自覚することを「動いて自覚し」とした。また、課題を解決するために、目の前にある多くの情報から今の自分に必要な価値あるものを見つけ出し、仲間と共に試行錯誤しながら動きを理解し、身に付けることを「動きの質を高め合う」とした。

副題について、ここで言うイメージとは、1時間ごとの授業の中でなりたい姿、単元の終盤でなっていたい姿である「ゴールイメージ」である。達成したい明確なイメージ像を作り、自分の動きを客観視することで自分のイメージと実際の動きとの差を見つけ、その差を埋めるためのアプローチを考え、やってみる。ゴールイメージをもち、「できそう」という感覚をもつことで、子どもたちは主体的に自他の運動についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤しながら、思考を深め、技能を高めていくことができるだろう。「できそう」から「できた」になることで、次の「できそう」が生まれ、さらなる「できた」につながっていく。このような「ゴールイメージ」をもった「できそう」「できた」の連続により、子どもたちの「見方・考え方」を豊かで確かなものへとしていきたい。

このような主体的に学びを深めていく子どもたちの姿が実現するために、（３）で述べる３つの具体的視点をもって追求していくこととした。

(3) 具体的な視点

なりたい姿のイメージをもち、「できそう」「できた」が連続する学びの構想



研究の視点

- (1) ゴールイメージをもちながら課題や変容の自覚を促す単元構成と授業構成の追求
- (2) ゴールイメージを支える「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求
- (3) ゴールイメージに向かう「主体的・対話的で深い学び」の追求

視点 (1) ゴールイメージをもちながら課題や変容の自覚を促す単元構成と授業構成の追求

- 「できそう」「できた」が連続する単元構成の工夫
- 子どもの実態をふまえた学習内容（身に付けさせたい力）や系統性を明確にした単元構成，授業構成の計画
 - ・系統的に身に付けさせたい動きを習得していきながら動きのポイントがわかる
- 基礎感覚・基本技能を養う運動の効果的な計画
- 課題を持って解決する場（思考・判断の場面）の効果的な計画

視点 (2) ゴールイメージを支える「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求

- 自分も「できそう」という思いがもてる運動の基本となる感覚や技能を養う運動の工夫
 - ・楽しみながら繰り返して行える運動
 - ・スモールステップが意識された活動（各領域・単元でめざす運動に到達しやすくする活動）
- 生活経験や体験活動を取り入れる工夫（保健学習）

視点 (3) ゴールイメージに向かう「主体的・対話的で深い学び」の追求

- 課題を持って解決するための学習方法や場の設定の工夫
 - ・ICT等や学習カードを活用した自己の課題や変容を振り返る手立ての工夫
 - ・チームや自分の技能レベルに気付き，課題意識を高める工夫
- 学習意欲を喚起する工夫
 - ・学習機会の平等性（誰もが安心して自分の課題に取り組むことができ，課題達成ができるといった成功体験の学習機会を保障した教材の工夫）
 - ・児童の実態（発達段階や興味関心）を考慮したルールや教具の工夫（誰もができた喜びや運動する楽しさを味わえる）
- かかわりを豊かにし，思考を深める言語活動の充実（参考：かかわり育成プラン）
 - ・共通課題となる問いの工夫
 - ・課題を意識した助言や補助